

(5) 入試関係

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の全国的な拡大のため、高校生へ向けた主要な理学部紹介イベントであるオープンキャンパスが中止され、高校生の進路選択に与える影響が懸念された。また、入学試験での感染に対する不安もあり、志願者数の減少が予想された。

全国の私立大学全体では、共通テスト利用型を除いた一般入試志願者は16%減だった。福岡大学も、全学は13%減で理学部も12.3%減と大きな減少となった。大手進学予備校の河合塾は、感染への懸念や家庭の経済状況悪化が大学受験生の出願校数減少の主な要因と分析している。福岡大学への志願者の大半を占める福岡都市圏の高校生も、同様な理由で併願数を減らしたと考えられる。オープンキャンパスは既に高校3年生が進路を決定している8月に開催され、参加者も高校1年生と2年生が主体であるため、2020年度に中止した影響は2022年度入試から顕在化すると予想される。

以下で、理学部の【学校推薦型選抜（A方式）】と【一般入試】の各方式での志願者数変化について説明する。

【学校推薦型選抜（A方式）】

志願者は全学では13.2%の減少だったが、理学部では2020年度の46名から2021年度は57名と11名（23.9%）の増加だった。学科・インスティテュート単位では、応用数学科と化学科は志願者が顕著に増加し、他学科とインスティテュートは微増・微減で例年並みだった。学校推薦型選抜の実施時期に一般入試の実施が不透明だったため、福岡大学理学部を第一希望とする受験生が学校推薦型選抜を積極的に受験したと考えられる。

【一般入試】

- ・系統別： 志願者は全学では10.4%の減少だったが、理学部では2020年度の458名から2021年度は454名で4名（0.9%）の微減だった。学科・インスティテュート単位では、社会数理・情報インスティテュートとナノサイエンス・インスティテュート（化学）がそれぞれ66.7%増と14.3%増であったが、地球圏科学科とナノサイエンス・インスティテュート（物理）がそれぞれ17.8%減と19%減となった。
- ・前期： 志願者は全学では13.2%の減少で、理学部は2020年度の1869名から2021年度は1590名となり、14.9%（279名）と全学と同程度の減少だった。学科・インスティテュート単位では、社会数理・情報インスティテュートと地球圏科学科がそれぞれ5.6%減と1.4%減で減少幅が他よりも小さかった。
- ・後期： 志願者は、全学では29.2%の減少だったが、理学部は2020年度の66名から2021年度は54名で12名（18.2%）の減少だった。後期入試は志願者が少ないため、全学に比べて減少率が小さい事に意味があるかは2021年度入試の結果だけでは判断ができず、2022年度入試も継続して見守る必要がある。

社会数理・情報インスティテュートは、【学校推薦型選抜（A方式）】と【一般入試】の各方式の全体を通して志願者を11.3%増やし、理学部の学科・インスティテュートでは唯一の増加であった。社会数理・情報インスティテュートの教育内容がデータサイエンスやAI等と関係することから、高校生が魅力的な進学先として判断したと考えられる。